

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止



君

僕

君を奪って僕は壊れた





ひとまず  
退院おめでとう！



ああ…  
うん

迎えにきて  
もらって  
すまないね…

よだ  
依田くん…



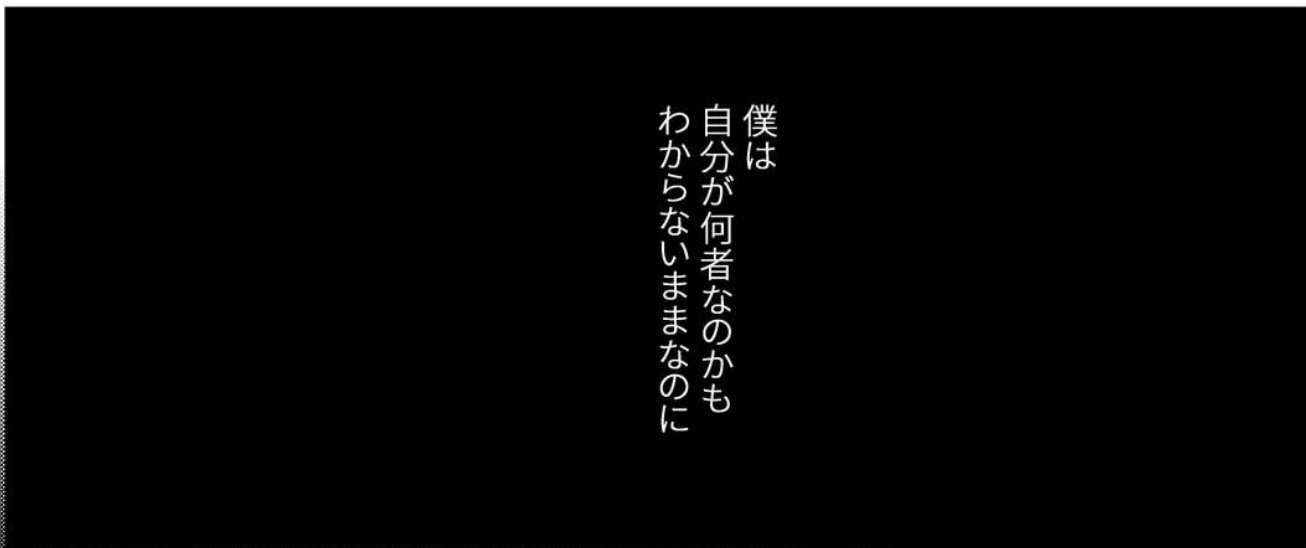
どこにも  
異常がなくて  
よかったね  
甲斐さん



何言ってるの  
ひとりじゃ家の場所  
わかんないだろ??

異常がなくて  
よかった?

全然  
よくないよ




僕は  
自分が何者なのかも  
わからないままなのに



気が付くと  
僕は知らない公園の  
トイレにいた




3  
日  
前



どうやら  
泣きながら  
吐いていたらしい  
ということが  
わかったが


僕は  
自身についての  
記憶を全て  
失っていた



スマホを  
持っていたけど  
他人の物のように  
感じてしまい  
見ることが  
できないまま

甲斐さん……!

トイレを出て  
放心していたとき  
助けてくれたのが



隣人であり  
友人でもあるという  
依田イトリック君だった

右に行く  
と業務スパー  
があるんだよ



俺は  
中に入ったこと  
ないから帰るね

なんか  
わかんないこと  
あったら電話か  
メールして

俺二つちの  
部屋だから



ここが  
甲斐さんの家だよ



おっ  
それと!

記憶が戻ったとか  
思い出したことが  
あったときも  
連絡してよ!



友人といっても  
家上げるほどの  
仲ではなかった  
ということか

彼は僕の親や  
他の友人のことは  
詳しく知らない  
らしい

そして彼は高校生で  
僕は大学生……  
正直なところ僕は  
彼との友人関係に少し  
懐疑心を抱いている



依田くんが  
出てくる夢……

俺が？  
どんなふうに？



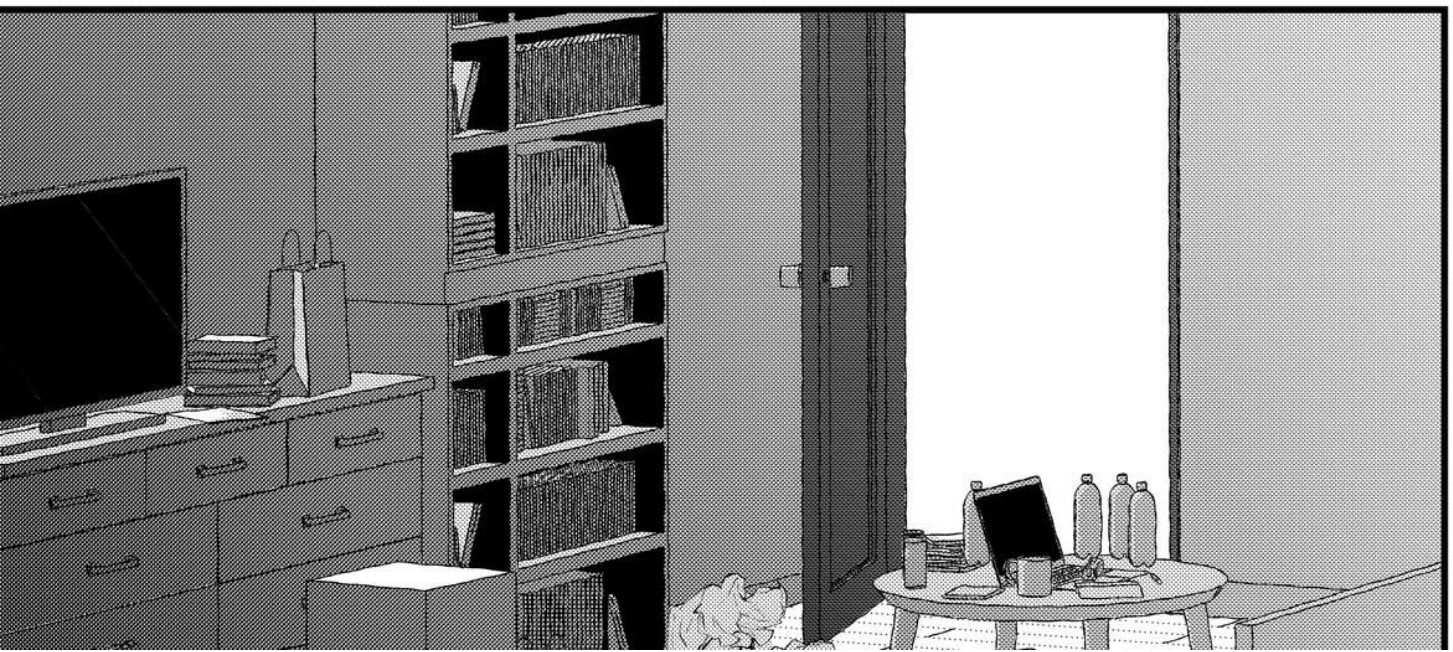
記憶かどうか  
わからないんだけど  
……毎晩同じような  
夢を見る

どんな夢？



わーっ  
そそっか！  
そっだよね！

すまないけど  
君と僕がどの程度の  
関係だったのか  
わからないから  
詳細は言いづらい





依田くんから  
聞いた僕の情報は

名前と年齢と家の場所  
都市線沿線の大学に  
通っていること  
そして  
両親を嫌っていたと  
いうことだけ

汚え部屋

つまり  
僕の持ち物を見れば  
すぐわかるような  
事柄ばかりだ



助けてくれた  
あるとき  
依田くんは泣いていた

悪い子ではない  
気がする…けど  
そこがかえって  
引っ掛かる



テキストが  
どれも真新しい…  
サボリ気味  
だったのか？

つうか  
何学部だよ…



日記…？



なぜ彼と  
親しくなったのか  
わからない

共通の趣味が  
あるわけでも  
なし…

おっと

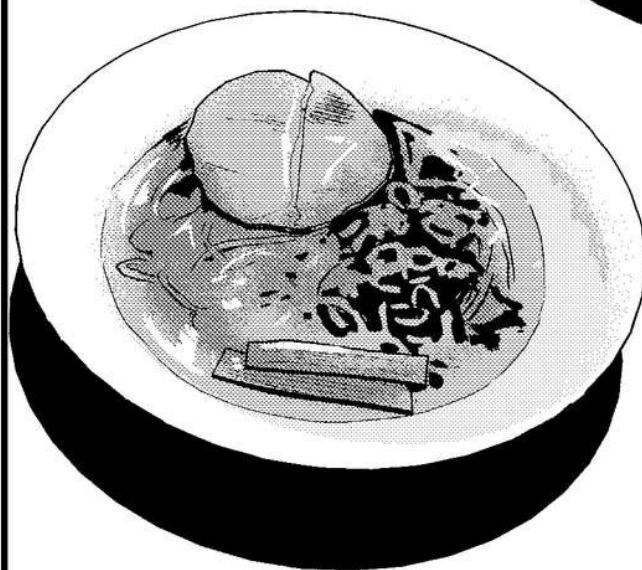
いとくんにとても酷いことでした。  
 色ざんげしたいです。しかし僕はいと  
 くに嫌われるのが怖い。君は僕をとても  
 ぞいてくれている。それがわかるから  
 いとくんの気持ちを手放す常気が僕には  
 ないから、今です"さす"と、そしてこのうと  
 関係を続けたい。

**ごめん**  
**なさい**

私は僕が最低の人間だとい  
 くんが隠してました。ごめんなさい。  
 傷つけたことと  
 めんなさい。

いとくんごめん  
 ごめんなさいごめんなさい  
 さいごめんなさいどうして  
 くれますか僕が死んで  
 くれますか僕の罪はどう  
 りますか君はあの日の  
 ら忘れられますか  
 うな人間ではない  
 僕の中身がぐちゃ  
 ブミのような腐っ  
 にまぶして  
 色して僕を苦し  
 僕を苦しめて





美味しい

やっぱり！

甲斐さんは  
ラーメンが  
大好物だっ  
たんだよ

そうか……  
ありがとう  
イトリック

あ……っ  
俺の名前……

下の名前で  
呼んでたかな  
と思って……  
違った？

ううんっ  
嬉しい

夕べは  
どうだった？  
風呂の使い方とか  
大丈夫だった？

うん  
特に問題は……



家のPCの中に  
イトリックんの写真が  
たくさん入っていた

普通のスナップ写真から  
隠し撮りの  
ようなものまで  
ものすごい数だった



あの……  
心当たりがなければ  
『甲斐』の名誉のために  
忘れてほしいんだけど

僕はイトリックんに  
好意を持っていた  
気がする

家のPCの中に  
君の写真があったんだ



……ああ！

甲斐さんは俺の  
インスタを  
フォローして  
頻繁にコメントとか  
くれてたから！

その写真じゃ  
ないかな

インスタ？

俺たまたまに  
モデルの仕事とか  
やってて……

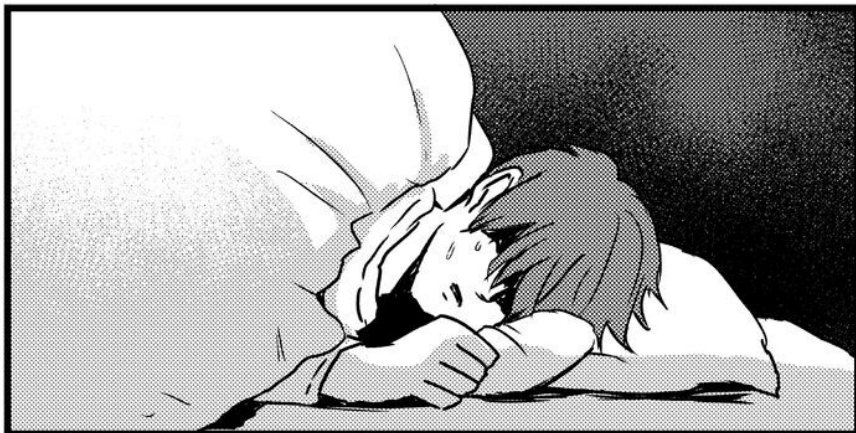
こういう感じ  
なんだけど



あのキモい日記と  
「メントとぶ」……

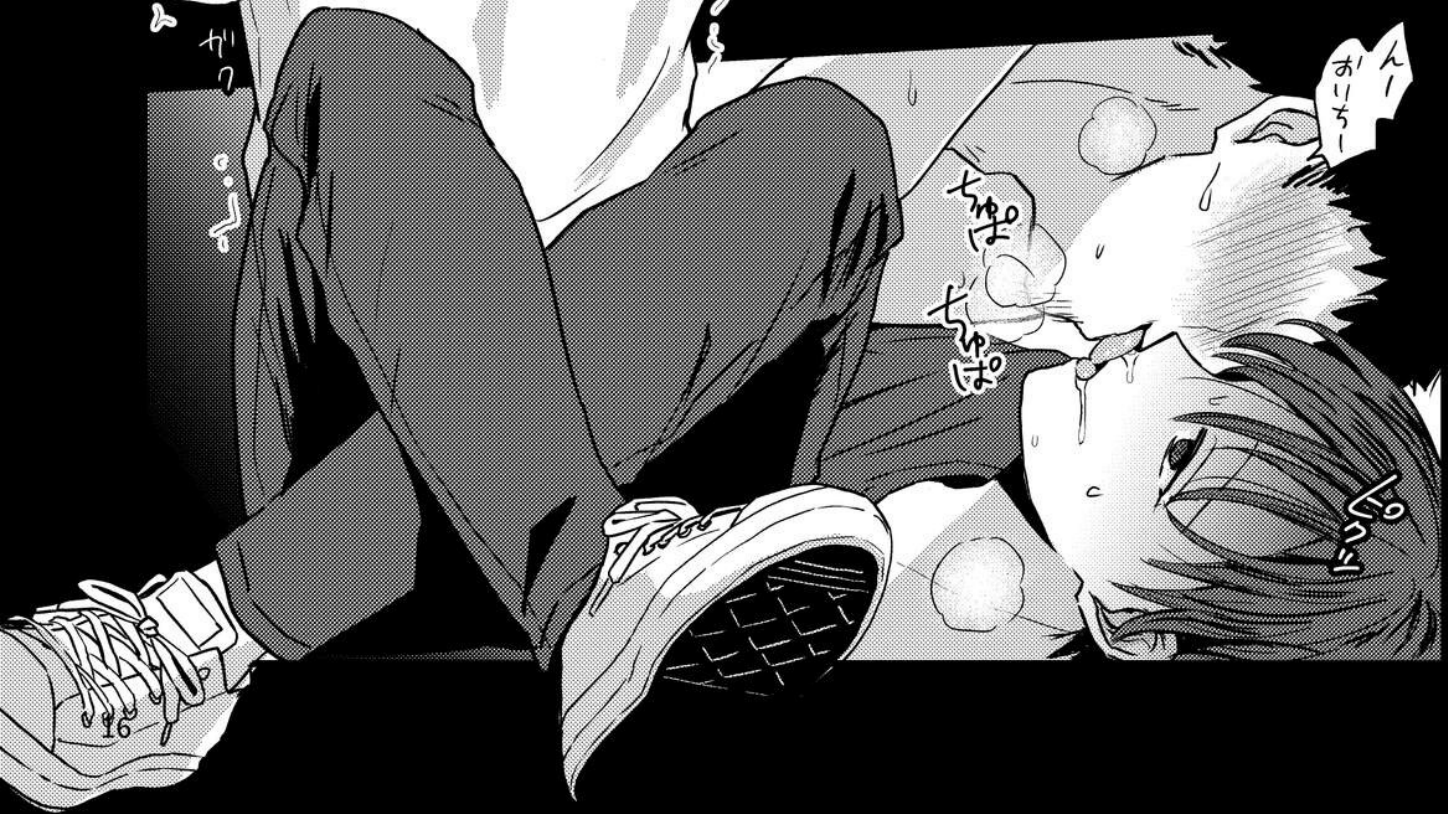
『甲斐』は  
いくら家が隣だからって  
イトリックんと  
友人でいられるような  
人間には見えない

『甲斐』と  
イトリックんは  
どちらかが  
あるいは両方が  
本性を隠しながら  
友人関係を続けていた？



それに……  
毎晩見る夢のことも  
気になる







ごめんなさい  
ごめんなさい  
ごめんなさい  
ごめんなさい



僕には無理なんだ  
身体が動かないんだ  
なんで...  
こんなことに

こつちを  
見ないで  
くれ...

たす...けて...

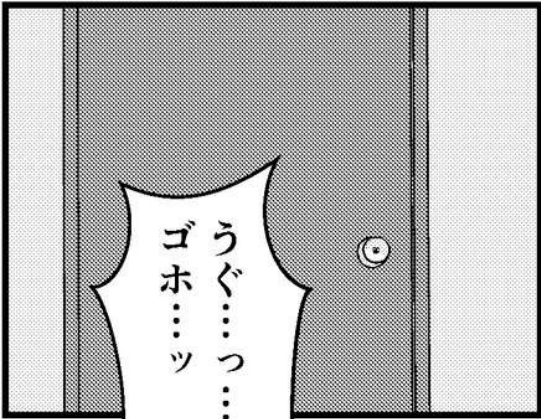


ごめんなさい  
ごめんなさい  
ごめんなさい

僕のせい  
なんです  
でも僕のせい  
じゃないんです  
僕は何もしてない

違うんです  
こんなつもりじゃ  
なかったんです

そんな目で  
僕を見ないで...  
お願いします  
ごめんなさい





この悪夢と  
あの日記……

『甲斐』は  
イトリくんは  
ものすごく酷いことを  
したんじゃないか？



もし自分が何らかの  
罪を犯して  
それをすっかり  
忘れてしまっ  
ているのだとしたら……

最悪だ……

とはいえ  
怖がられるのも  
嫌だから  
ここはメールで……



本当は最初の日から  
ずっと  
そんな気がしている

でもイトリくんは  
僕にあんなに  
良くしてくれる

どうして  
だろう

甲斐 駆



気味悪がらないで  
きいてほしい。



僕が毎晩見る君の夢は  
「君が男に犯されていて、  
それを僕が見ている」  
というものなんだ。

甲斐 駆



もし君がこのことに心当たりが  
なくても、僕の記憶が戻った時、僕は君に  
ひどいことをするかもしれない。  
それを記憶がない今のうちに伝えておいた  
方がいいと思って。



我ながら  
気持ち悪いメールを  
書いてしまった





ITORI



俺たちは本当は友達  
じゃなくて恋人同士なんだよ  
黙っていてゴメン

俺が襲われてる時に  
甲斐さんが助けてくれたことが  
あったから、その日のことを夢に  
見ているんだと思う



ITORI



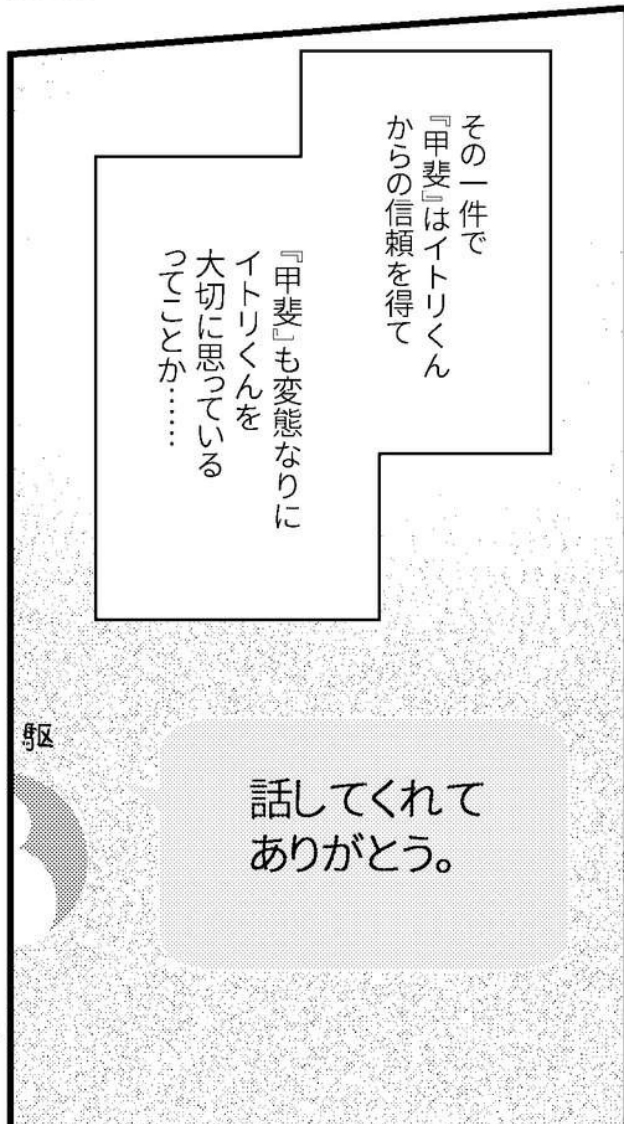
もっと早く助けられたら  
って後悔してたのかも

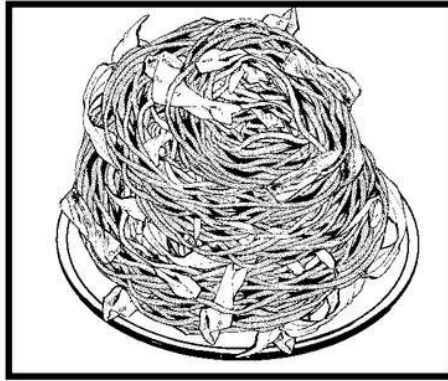
ORI



でもあのとき  
甲斐さんが来てくれて  
俺は本当に嬉しかったんだよ







身体の関係は  
あった……？



付き合っ  
ていたんだよね？  
つまり……



イトリックんと  
僕は……

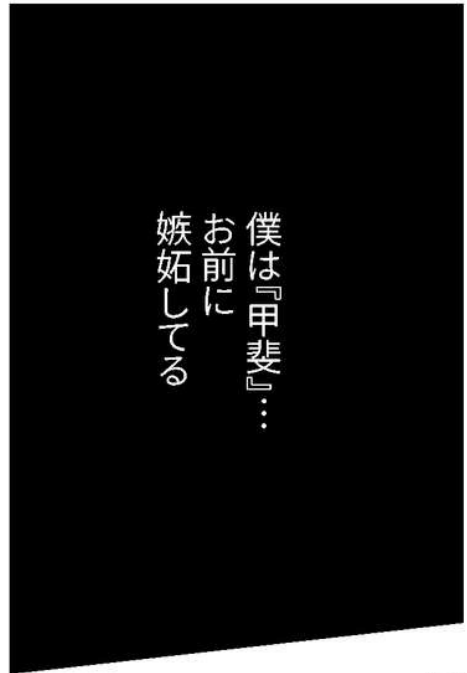



うん……

毎日!?

……うん  
ほぼ毎日  
俺の家で









今の僕は  
イトリくんの恋人  
じゃない

はっ  
はっ



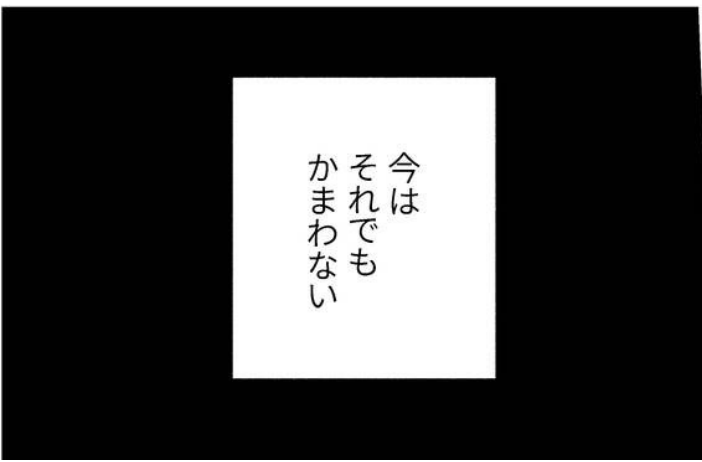
それでも  
イトリくんが僕に  
身体を許すのは

僕の中にある  
『甲斐』を  
見ているからだ



ごめ…  
止まんない…

う…っ  
ん…っ…

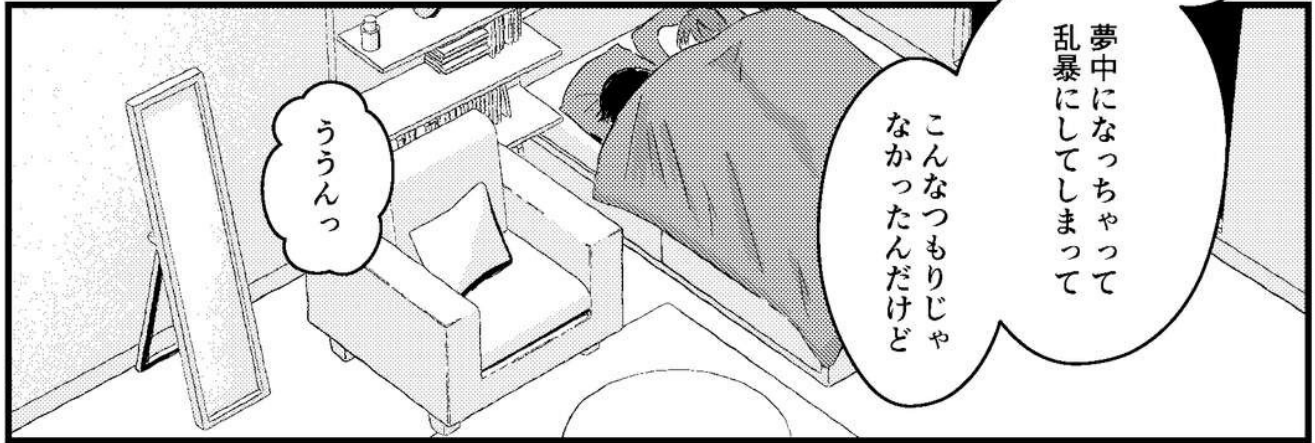


今は  
それでも  
かまわない





ごめん……



夢中になっちゃって  
乱暴にしてみました

こんなつもりじゃ  
なかったんだけど

ううんっ



俺は  
気持ちよかったよ

それに……

いつも  
そんな感じ  
だったから

……よかった……




「甲斐」……

僕はお前のことが  
大嫌いだよ

お前もきつと  
僕を嫌っているだろう

僕はお前から  
恋人を寝取った  
のだから



その日から  
僕たちは毎日  
セックスした

記憶を失う前の  
お前がそうして  
いたように

悔しかったら  
隠れていないで  
出てくればいい

できないだろ？

ごまーみろ



あ…  
うん

もしかして  
大学行くの？

甲斐さん  
おはよう！  
偶然だね



甲斐さんは大学を  
ずっとサボってた  
みたいだから

いいことだと  
思う！



いつまでも休んでちゃ  
まずいと思って  
学校に連絡してみたら

とりあえず  
夏季休暇中に  
面談を  
つてことになって

そっか  
そっか！



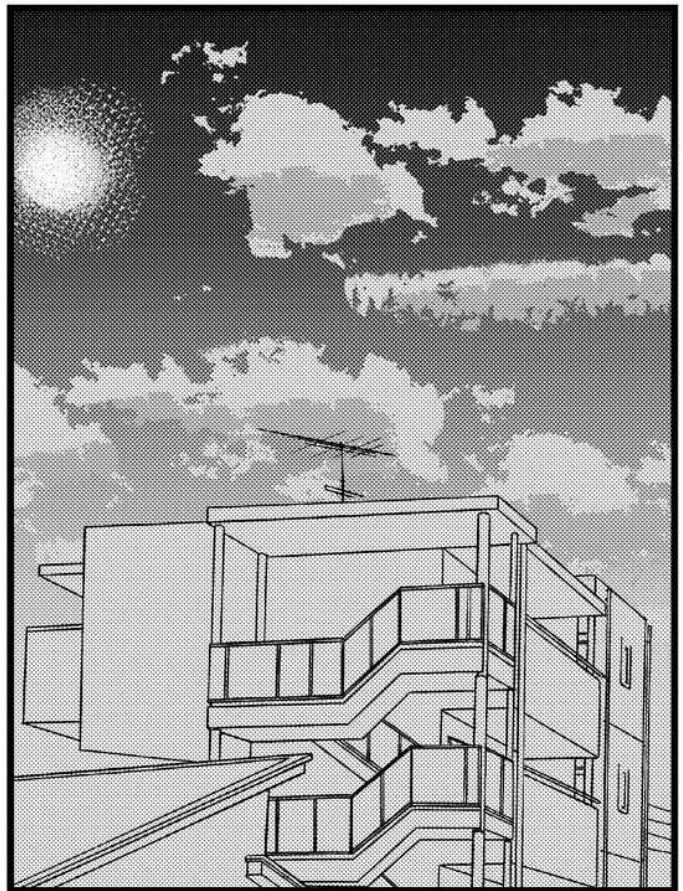
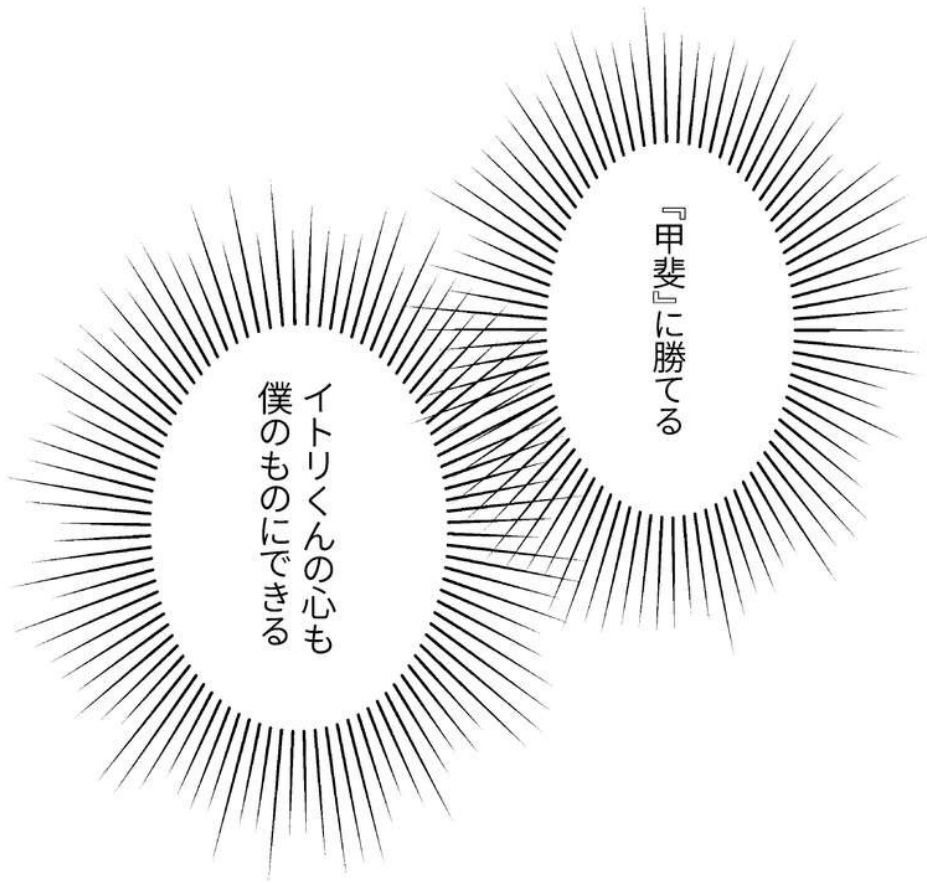
それって……

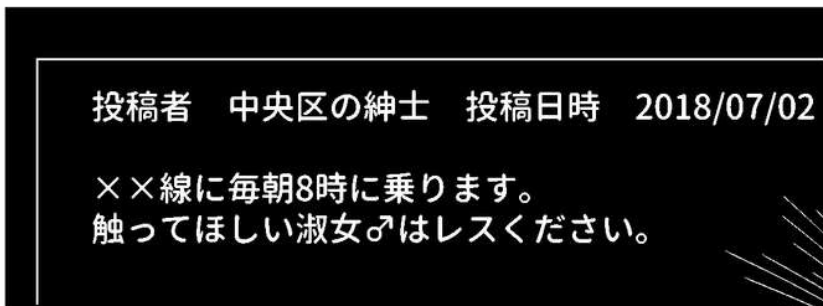
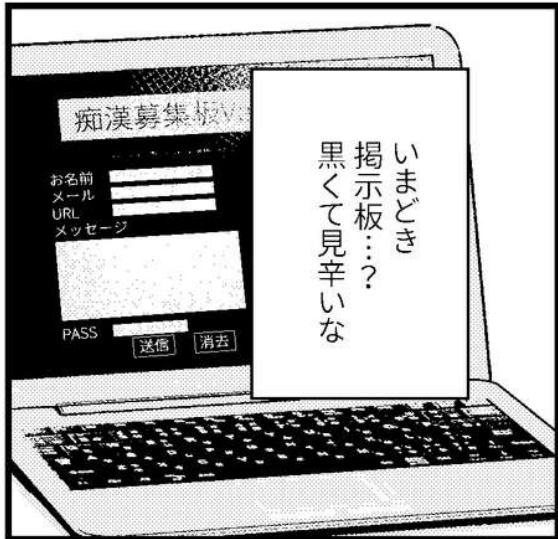


『甲斐』ではなく  
この僕を……！



今の僕を  
認めてくれて  
いるってこと……!?





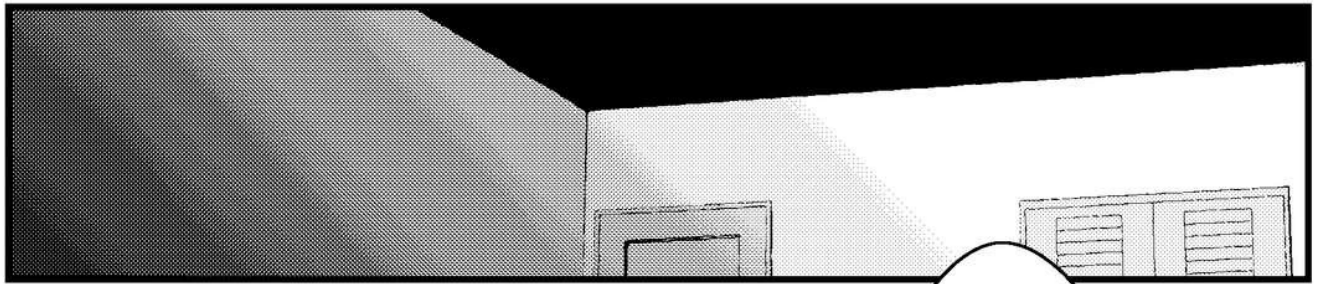
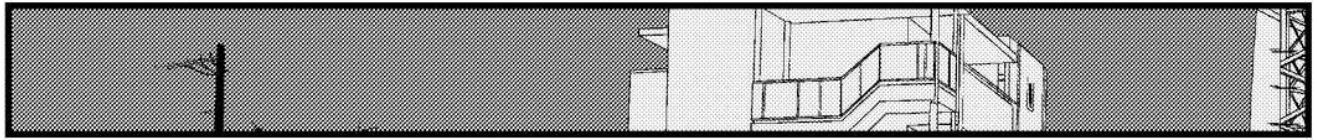


いや……

掲示板で相手を  
募って痴漢プレイ  
するだけなら  
合法……か？

う……っ

徐々に  
吐き気が……



記憶をなくす前の  
僕は変態だった  
んじゃないかと  
考えてるんだけど

どう思う？

え……っ!!  
そんなことは……



イトリックくん……

……なに？

でも『甲斐』は  
電車で……

いや  
いくら『甲斐』に  
嫉妬していても  
僕は甲斐なわけで

僕の名誉のためにも  
あんな掲示板を  
見ていたことは  
さすがに  
言うべきじゃない

まさかイトリくん  
に対して痴漢行為を  
働いていたなんて  
ことは……さすがに  
ない……よな……？

いや……あの……

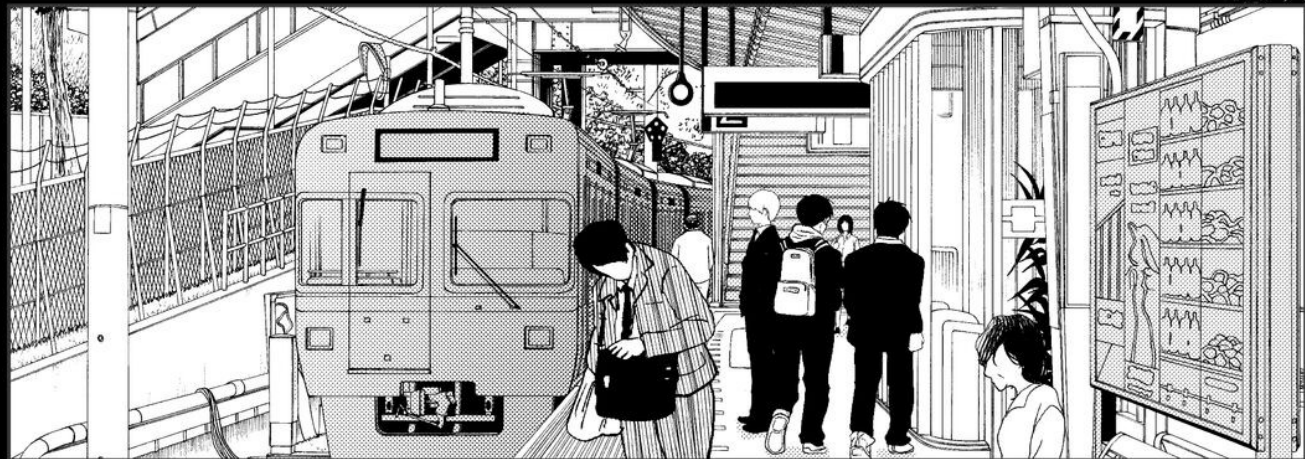
僕は電車で  
襲われていた  
イトリくんを  
助けたんだっけ？



甲斐さん！  
甲斐さん！

思い出したく

ない……のじ……



なんとなく  
気になって  
あとを付けた

駅の近くの  
単身者向け  
マンションに  
住んでいるようだ



あ、あの子  
可愛い……

四ツ橋高校の  
制服だ  
1年生かな

てか  
こないだ  
インスタで  
見た子かも……

僕は親に  
適当に近所トラブルの  
作り話をして  
彼の隣に引っ越した

親密になりたい  
わけじゃなかったけど  
隣に住んでいるという  
事実だけで  
嬉しくなった

電車の時間を  
合わせるようになった

「隣に住んでる甲斐だよ。  
偶然だね。  
インスタ見てるよ。  
今日の朝ごはんは  
玄米フレーク  
だったんだってね。」

いや……  
そんなこと  
急に言ったら  
気味悪がられる…

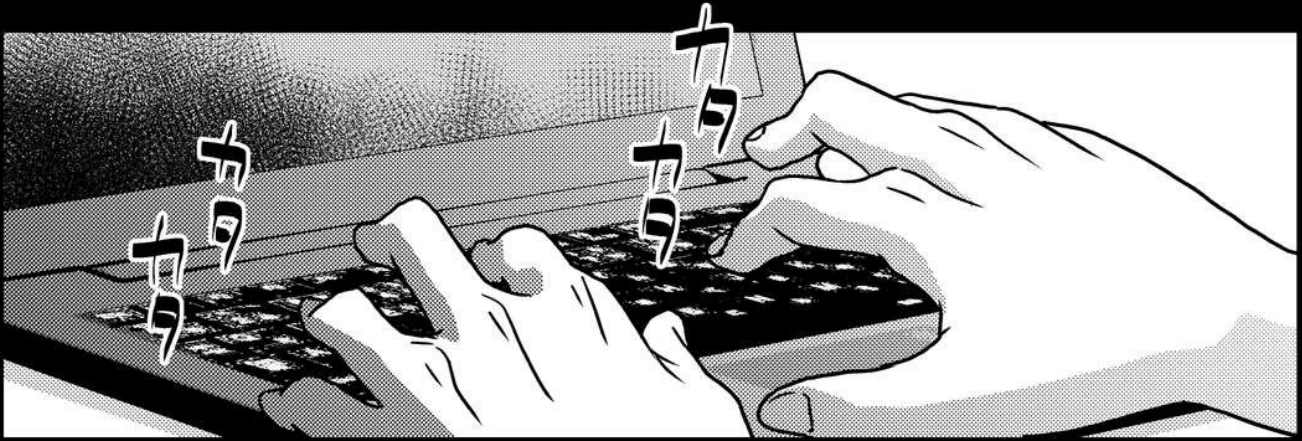
きれいな髪に細い腰  
ピンク色の唇……

目の前にいるのに  
触れるどころか  
声をかけることもできない

イトリくん……  
君の身体に  
触れてみたい

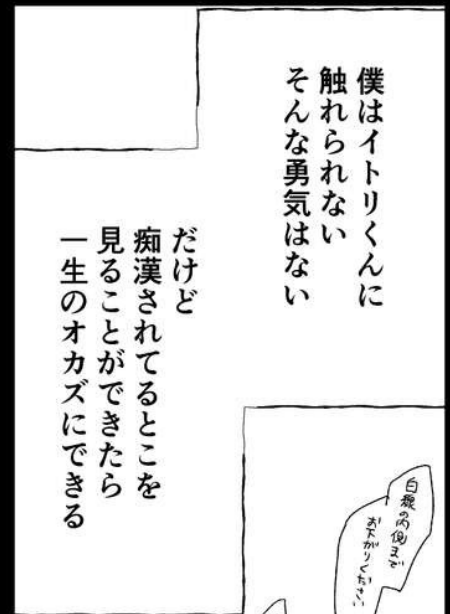
君の細い腕を  
手すりに縛り付けて  
僕のチンコをおしつけて  
君の尻の穴に  
ねじ込んで  
ぐちゃぐちゃに犯したい

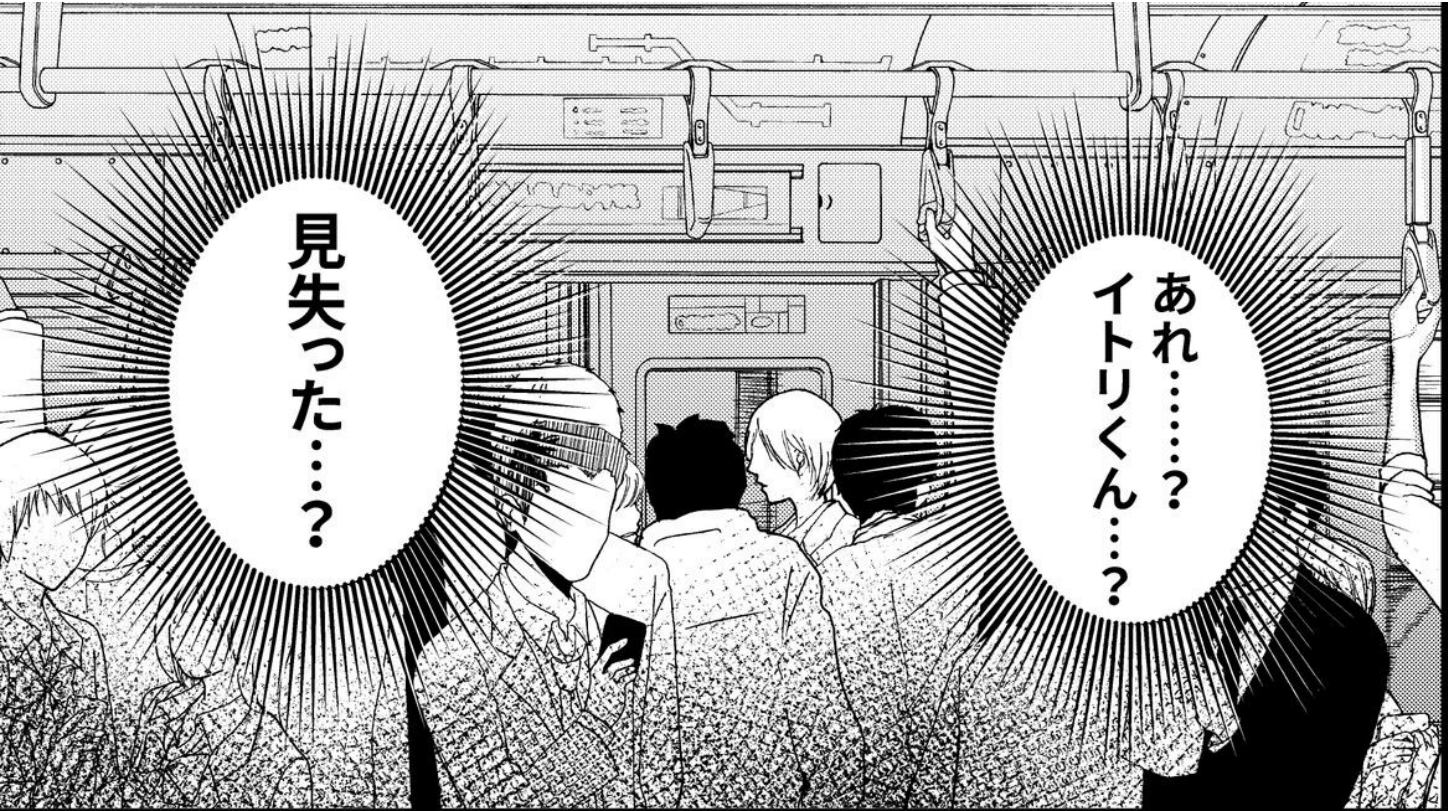
君の中に  
俺の精子を  
大量に注ぎ込んで  
孕ませたい



投稿者 ねこうさぎ 投稿日時 2018/02/25

Y高1年です。  
都市線にセンター前駅から乗ります。  
朝はすごくムラムラして困っています。  
触ってくれたら嬉しいな。







ふざけんなよ  
クズどもが



何人がかりで  
困り込んで  
るんだよ…!!

こんなに  
好き勝手弄んで  
いいなんて  
言っていないぞ!!



イトリくんの  
降りる駅は  
まだ先なのに……



えっ  
あれ…!!  
降りた!?

あいつらと  
一緒に…!?



次は学園前 学園前  
市営モノレールは  
中ほどの階段を  
ご利用ください





僕は  
平気だから……

あの……  
お俺……  
汚れてるから  
触らないで……



怖かった  
だろ……

もう……  
心配  
いららないよ

イトリックくん……



ありがとう……  
ございます……

でも……

……どうして……  
俺の名前……

実は僕……  
隣の部屋に  
住んで……

たまたま  
同じ電車で……





甲斐さん  
記憶をなくす前も  
今みたいに  
具合が悪そうだった……!

それで……  
急に  
いなくなつて……



ごめ……  
僕……  
帰……

帰らないで!!



思い出して  
ほしいなんて  
もう言わないから……

僕の前から  
いなくならないで……



記憶をなくした  
あの日も……  
僕は君と一緒に  
いたのか……



だから……

今は何処にも  
いかないで……

イトリックん……  
僕は……

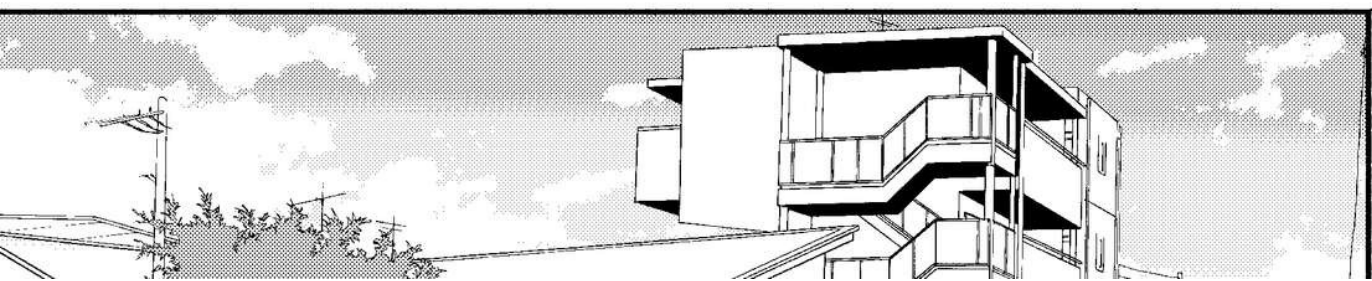


わかった……

君のそばに  
いるよ……

『甲斐』が最低の  
ゴミクス野郎だと  
いうことを

僕は  
思い出してしまった





『甲斐』

お前はきつと  
犯した罪の重さに  
苦しんで苦しんで

苦しみ過ぎて  
記憶を奥に押し込んで  
隠してしまったんだろう



だから僕は  
お前とは違う



一番思い出したく  
ないことだけ  
思い出した

今も  
全ての記憶が  
戻ったわけじゃない



あ…のさ…

俺この春で  
この部屋を出ないと  
いけないんだけど



美味しいよ!

よかった



すごい!  
レシピ動画  
そのまま!

肝心の味が  
どうかなくて



今だって  
半分同棲みたいにな  
ってるし……



一緒に  
暮らせないかな？



ふっ



僕でよければ  
もちろんいいよ

今週末さっそく  
新しい部屋を  
探しに行こうか

罪を犯したお前は  
そのまま永遠に  
眠ってればいい

僕なら  
もつと  
うまくやれるから



汚字

# あとがき

はじめまして、ミナカミ理久と申します。  
お年になっていただきありがとうございます！

やらかた件と、他人事のように切り離して罪から逃れようとした人の話でした。  
言い訳とか、いろいろ書きたいことがあつたので  
いかにせし時間が「210分」、省略します。

プロット作りとき、お名が「決ま」ったので、XとYで書いてたので、  
またXとYにまつては「お名」付けました。

次の話は全然 女性せし。

何を描けば いいのか...

だから今日は久々に少し長めの話が「描」けたので。

「感想」などきかせて頂けたら、すごくうれしいです！(過去作は商業作です)  
ありがとうございます。

ミナカミ理久 ☺

## 君を奪って僕は壊れた

2018年12月29日

著                    ミナカミ理久  
サークル            久米  
                          Twitter @lcriku  
印刷                   サングループ

コピー禁止・転載禁止



